第1-Ｂ分科会　要項（案） テーマ「 特担をしている方などの情報交換 」

**記 録 用 紙**

 日時　令和5年８月２日　　 　　１３：１５～１４：４５

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 場所　光明支援学校小学部校舎 2階4―５教室

進行 光明支援学校（研修部長）　　 　 　 佐藤　統

記録　光明支援学校（事務局） 　 　 東　頼子

＜ 分科会記録 ＞

Q支援学級での授業の進め方について

Q複数学年がまたがる学級での集団でできる授業

A1　初めての支援学級で1,3,4,5年生を担任している。

　　　国語・算数は，個別での支援は難しい。

　　　集団として，学年が違っていてもできることとして時計すごろくをしている。

　　　集団としてやりたいが，結局個別になってしまい，ゲーム活動がメインになっている。

A2　全体で行う活動として，絵しりとりやいろは歌(平仮名)1行ずつ覚えて発音練習をしている。

A3　課題をそれぞれ配布して個別を行っている。(支援員にも協力してもらっている。)

　　支援学級にダウン症の子が居て，1人で授業などに取り組むことができないので，その子が集中してできる物を考えるのが難しい。

A4　絵と文字のマッチングや1人でできる課題の用意(ポイントを絞って)をしている。

A5　集団で行う活動として国語・算数では絵本の読み聞かせの際に全体で行い，一人一人に合った個別の目標を取り込んだ後に，個別の学習を行っている。

　　個別だけでなく，グルーピングも大事である。

Q数の概念を教える方法について

A1　数字への関心があまりないため，学習を始めるとすぐに止まってします。(フリーズ)

　　3年生の時に，平仮名が読めない，１,３,４,９と読んでしまっていたが,数字の学習や勉強という形ではなく，魚を釣って，捕った数を数えるという遊びとして取り入れることで,４まで読めるようになった。

A2　数字ができると授業を拒否してしまう。給食の時に，数と関連付けをして「3食べたら，デザートね。」と物を使って数を入れる。

　　本人がやりたい課題を自分で選ばせる，また初めから約束をして駆け引きをしている。(これをする代わりに，次これするよ。)

A3　本人の好きな物を使って，数字と結びつけていた。

Q　生活単元学習の内容について

A1 コロナで制限されていたが，解禁されたので駄菓子屋に買い物に行き，4グループの縦割で行う。上の学年が下の学年を見るなどして，一緒に学習活動を行った。

― １ ―

＜ 分科会記録 ＞

A２　誕生日会や買い物学習，畑を行った。

A３　子どもが作りたい物を事前にアンケートをとり，制作活動や公園に行く。

A４　夏のイメージから連想して，スイカ作りや花火などを制作した。

A５　畑や掲示物を作成。月ごとの制作として児童に考えさせる。

A６　コースターや折り紙で制作。1月に販売会をしている。

Q　自立活動などに使う教材をどのように選定しているのか

A１　教材はT1の先生から借りて使っている。

A２　絵カードのマッチング，数を数える(具体物を使って)，ゴム掛け

A３　箸でつまむ練習，給食着のボタン掛け，リタリコでプリントメインに活動している。

― ２ ―

話題に挙げたい内容

・「支援学級での授業の進め方について」

名取市立館腰小学校　　　　　川田紗希子　先生

仙台市立桜丘小学校　　　　　佐々木南実　先生

・「数の概念を教える方法について」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　利府町立利府第二小学校　 　狩野　紗弥　先生

・「複数学年にまたがる学級での集団でできる授業について」

　　　　　　　 多賀城市立山王小学校　　　 丹藤万祐子　先生

・「生活単元学習の内容について」　　　　　　　　 仙台市立四郎丸小学校　　 木村由美子　先生

・「自立活動などに使う教材をどのように選定しているかについて」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 宮城県立小松島支援学校　 菊地　秀幸　先生